

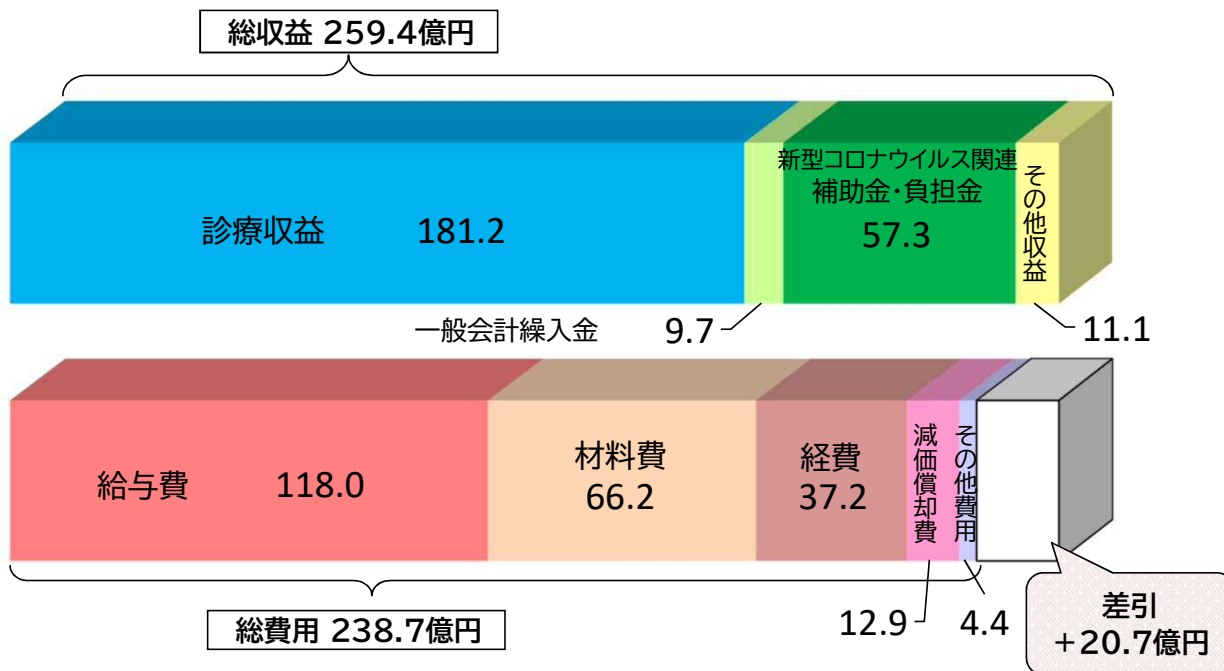
令和3年度決算の概要

令和3年度の病院事業会計決算は、前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症患者受入対応で入院収益が予算に比べ減少する一方、病床確保促進事業費補助金55.8億円が交付されたことなどにより、20.7億円の黒字となりました。

資金の状況としては、令和3年度単年度の資金残は19.2億円、過年度内部留保資金・一般会計からの長期借入金を合わせた年度末資金残は51.8億円となりました。

(1) 収益的収支(税込) <経営に伴って生じたすべての収益とそれに対応する費用⇒1年間の経営成績>

※端数処理により合計が一致しない場合があります。



【前年度との比較】

<総収益>

対前年度 ▲13.2億円(▲4.8%)

<総費用>

対前年度 ▲4.1億円(▲1.7%)

<内訳>

○診療収益 対前年度 +5.5 億円

患者単価の増加により、入院収益・外来収益がともに増加したことによる。

○繰入金 対前年度 ▲0.6 億円

○新型コロナウイルス関連補助金・負担金

対前年度 ▲12.3 億円

感染症病床確保促進事業費補助金の減少など。

○その他収益 対前年度 ▲5.8 億円

前年度に特別利益として計上した、新型コロナ対応従事者慰労金の財源である国費の減少など。

○給与費 対前年度 +1.6 億円

職員数の増加に伴う給料の増、時間外勤務手当の増加などによる。

○材料費 対前年度 +2.1 億円

高額な薬品の使用増や、医療材料の単価増などによる。

○経費 対前年度 +0.7 億円

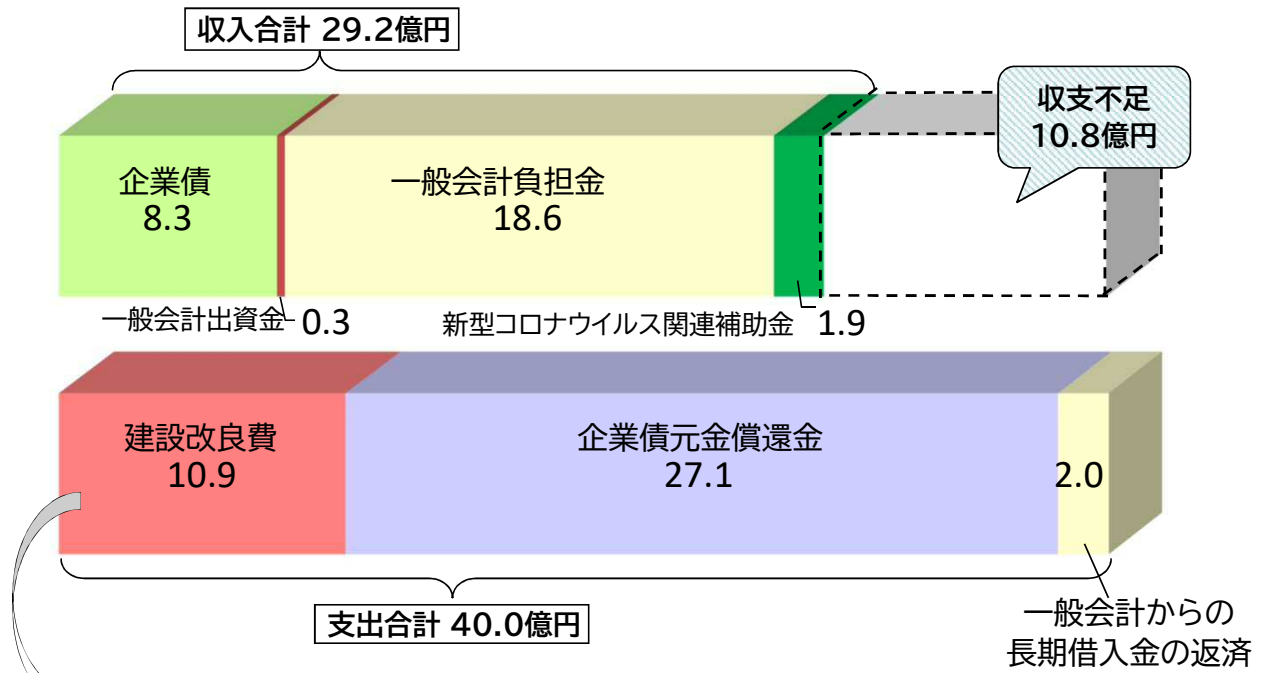
○減価償却費等 対前年度 +0.3 億円

○その他費用 対前年度 ▲8.9 億円

前年度に特別損失として計上した、新型コロナ対応従事者慰労金の減少など。

収益的収支は前年度から9.1億円悪化したが、差引で20.7億円のプラスとなった。
※ただし、感染症病床確保促進事業費補助金55.8億円がなかった場合、収益的収支は35.1億円のマイナスとなっていた。

(2) 資本的収支(税込) <建物や医療器械などの整備費用とその財源、借入金の返済など>



【建設改良費の内訳】

- 病院整備費 2.8 億円 貫流ボイラー更新工事ほか
- 医療器械購入等 8.1 億円 血管造影X線診断装置ほか

(3) 資金状況

当年度収支	9.9億円
(収益的収支20.7億円+資本的収支▲10.8億円)	
+	
損益勘定留保資金等(現金を伴わない収益と費用等)	9.3億円
当年度分資金残	19.2億円
+	
過年度内部留保資金(前年度までの資金残)	7.6億円
+	
一般会計からの長期借入金	25.0億円
年度末資金残	51.8億円

この資金については、市立札幌病院が、新型コロナウイルス感染症への対応を行いながら、救急や周産期等の医療を安定して供給し、地域の医療を支えていくために活用しています。